宇都宮市立錦小学校　学校だより

にしきの子

第８号　令和６年１２月９日　発行者　校長　大森信二

学校教育目標（合言葉）
一、しっかり学ぶ　錦の子
一、よりよく生かす　錦の子
一、なかよく生きる　錦の子
一、元気でがんばる　錦の子

１年を振り返って

２０２４年（令和６年）は辰年で，変革や激動がキーワードとなり，時代が動く年と言われていました。実際に，政治やスポーツの世界でもたくさんの変革や激動のドラマがありました。学校では，昨年まで「こどもの家」として使用していた北校舎西側の教室を，新たに「ＰＴＡ室」として有効に活用しています。今年は，ガーデニングボランティアの皆様が，市教委から教育支援感謝状を贈呈されました。また，錦地区体育祭や防災訓練などの地域行事では，たくさんの児童が参加することがでました。２０２５年は，６０年に一度巡ってくる「乙巳（きのとみ)」の年でもあります。 乙（きのと）は，草木がしなやかに伸び横へ広がっていくという意味があり，巳（み）は，神様の使いとして大切にされてきた動物で脱皮を繰り返すことから，来年は，再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年になると考えられています。学校も，これまでの伝統や文化を大切に伝承しながら，ＶＵＣＡの時代に対応できる「生きる力」や「たくましさ」を育成できるよう，教育活動を進めていきたいと思います。

地域の皆様，保護者の皆様，１年間大変お世話になりました。来年も引き続き，よろしくお願いいたします。

校内人権旬間

児童の人権意識の高揚を目指し，１１月２０日（水）～１２月６日（金）を校内人権旬間とし，人権に関する標語づくりや作文の読み聞かせを実施しました。「人権」は，一人一人が生まれながらにもっている「自分らしく生きる」権利であり，「安心して生きることができる」「ありのままの自分でいる」「自分を守り，守られる」「自分で決める」などたくさんの権利があります。学校では，一人一人の違いを認め，自分のよいところ，友だちのよいところを見つけて，それぞれが大切な存在であることを再確認し，人権を大切にする心を育てていきたいと思います。

錦小学校地域協議会

１１月１３日（水），第２回地域協議会を開催いたしました。委員の皆さんで給食を試食し，５校時の授業を参観した後に会議を行いました。議題は，「交通安全標語」の選出について」「学校評価アンケートについて」「学校運営について」などでした。加藤会長からは，コミュニティ・スクールに関する説明がありました。最後に，各団体からの情報交換を行い，次回開催の確認をし，閉会いたしました。

遠足（１年）

１１月１９日（火），１年生は遠足で宇都宮動物園に行きました。天気にも恵まれ，児童はたくさんの動物たちとふれ合い，思い出に残る一日となりました。

教育実習生

１１月２５日（月）から １２月２０日（金）まで，教育実習生の 岩渕 友加里 先生が来校します。岩渕先生は，本校の卒業生です。また，先日まで市内の小学校で，図書館司書として勤務もされていました。担当は１年２組です。４週間一緒に勉強することになりました。よろしくお願いします。

オープンスクール（午前中）

１２月６日（金），午前中をオープンスクールとしました。２校時は地域清掃の時間とし，１～４年は学校敷地内，５年は錦西公園，６年は錦中央公園を担当しました。多くのボランティアの皆様にご協力をいただき，大変お世話になりました。

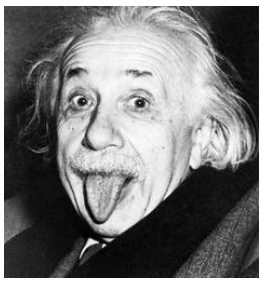
お弁当の日

１２月６日（金）は「お弁当の日」です。食育の推進を図る目的で，陽北地域学校園で一斉に実施をしています。お弁当作りを通して，子供たちの食への関心を高め，感謝の心を育みます。保護者の皆様，先日の「おにぎりの日」同様，ご協力をいただきましてありがとうございました。

全市一斉土曜授業

１２月７日（土）全市一斉土曜授業日。２校時に，親学出前講座を開催しました。「ＧＩＧＡスクール時代の子どもたちに育みたい力」と題し，市教育センター渡辺様から，貴重なお話をいただきました。

彼らを判断するのを決して急がないことである



昔から「十で神童，十五で才子，二十すぎればただの人」という言葉があります。その反対に，大器晩成という言葉もあります。発明王エジソンは小学生の頃，教師から「お前の頭は腐ってる」「頭が悪すぎる」とののしられ，わずか１年で退学になっています。相対性理論で有名なアインシュタインは，１２歳までは学習能力に遅れの傾向が見られる子供だと思われていました。このような例から分かるように，教師や親が子供を理解する場合，気を付けなければならないことがあります。それは，他の子供と比較し，目先の成績に目を奪われたりせず，子供の成長を長い目で見守るということです。学校の成績だけで比べると差があるように見えますが，学校を卒業してからの１０年後，２０年後という長い尺度で見ると，その差はどうなっているでしょう。場合によっては，立場が逆転していることもあります。

「士別れて三日なれば，即ち更に刮目して相待すべし」これは，三国志演義で，呉の武将呂蒙故事にある言葉で，「優れた人間は３日も会わなければ成長するもの，先入観を排してよくよく相手を見よ」という意味と言われています。向上心のある人間は，日々努力して成長しており，しばらくして会ったら前とは見違えるように実力をつけていたということです。人間は，未知の潜在能力をもっていて，何かをきっかけに大きく成長します。

特に，ある条件や環境の変化により，別人のように能力を発揮することがあります。自分の友人や仕事の同僚を「欠点がある」「見込みがない」などと決めつけることは正しいとは言えません。昔のままの相手であり自分であるという思いがアンコンシャス・バイアスとなり，対人関係に支障をもたらすものと思われます。

フランスの詩人・文芸評論家のサント・ブーヴは，「人間を理解する方法はたった一つしかない。それは，彼らを判断するのを決して急がないことである」と言っています。

今後も，子供たちの成長を長い目で見守っていただけたら幸いです。

本校のＨＰは日々更新しています。
最新情報はＨＰでご確認ください。

にっこりえがお
しっかりまなぶ
きたえるからだ